

サプライチェーンとともに



基本的な考え方

ライオングループは、サプライチェーンにおける取り組みにおいて、原材料メーカーや生産委託先との連携を強化し、責任あるサプライチェーンマネジメントを構築することが重要な課題であると考えています。

事業活動の環境や社会に対するマイナスの影響を低減させ、お互いの事業を持続的に発展させるため、「調達基本方針」に基づき、取引先と当社とがサステナビリティの取り組みを深化させることが必要です。本方針では、法令遵守、環境保全、人権尊重等からも取引先を選定する姿勢を明確化しています。

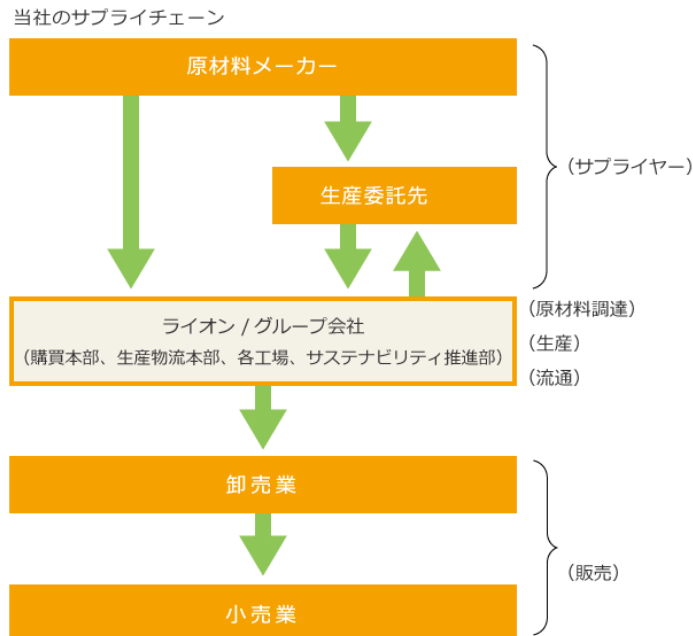
また、当社の主要な植物原料であるパーム油において、持続可能な調達を推進することが重要であると認識し、取り組みを進めています。

贈収賄防止指針の制定

当社グループは、世界各国での贈収賄・腐敗行為に対する法規制強化の流れに鑑み、2019年に「ライオン贈収賄防止指針」を制定し、贈収賄等の腐敗の防止への姿勢を明確にしました。

今後も、事業を展開する国及び地域の法令等を遵守した事業活動を徹底します。

全体像及び推進体制



取り組み



原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの
推進




持続可能な原材料調達に向けて



原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進

「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン^{*1}」に基づくセルフチェック

ライオングループは、責任ある調達活動を推進するため、原材料メーカーや生産委託先(サプライヤー)へ「[ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン](#) 

2014年よりセルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化し、より効率的にサプライヤーが回答できるようにしました。また、結果のフィードバックを回答いただいたサプライヤーに送り、継続的にCSR調達を推進できる体制を確立しています。毎年、100%の回答率を目指しています。

2022年は海外グループ会社であるLion Corporation (Korea) のサプライヤー129社(回答率:57%)、獅王日用化工(青島)有限公司のサプライヤー42社(回答率:100%)、Southern Lion Sdn. Bhd.のサプライヤー71社(回答率:49%)に対してセルフチェックを実施しました。

また、国内グループ会社であるライオンエンジニアリング株式会社(建設業)のサプライヤー72社に対してもセルフチェック^{*2}を実施しました(回答率:99%)

今後もサプライヤーとともにサステナビリティの取り組みを推進します。

*1 5主題(人権・労働、環境、公正な事業慣行、消費者課題、コンプライアンス)、21項目のガイドライン

> [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説\(日本語\)](#) 

> [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説\(日本語\)\(LE版\)](#) 

> [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説\(英語\)](#) 

> [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説\(中国語\)](#) 

> [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説\(韓国語\)](#) 

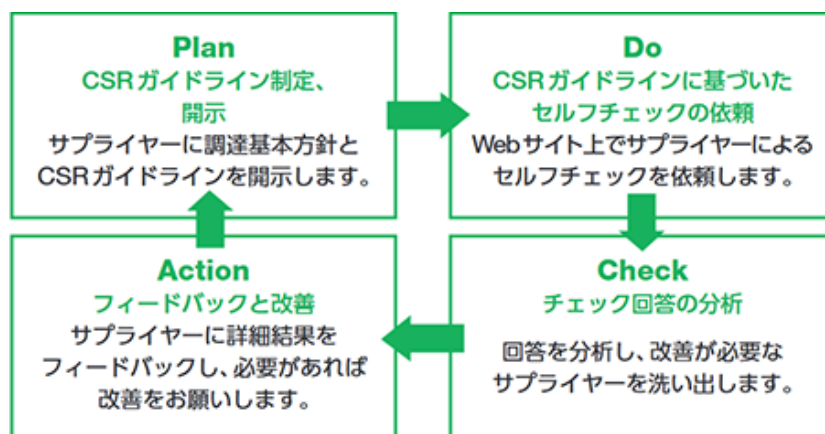
*2 従来のセルフチェック21項目に対して、「反社会的勢力との対決:反社会的勢力・団体との関係を遮断し、不当な要求は一切拒絶する」を追加

CSR調達を取り組み年表

2005年	「購買に関する基本方針」を制定し、原材料や製品の適正な調達を実施
2008年	社会面、環境面への配慮をより明確にした「調達基本方針」を制定。国内外の原材料メーカーや生産委託先にコンプライアンス、製品サービスの品質・安全性、環境配慮、労働・人権、公正な取引に関する企業活動のアンケートを実施
2013年	「調達基本方針」を改訂し、法令遵守、環境保全、人権尊重等からもサプライヤーを選定する姿勢を明確化。原材料メーカーや生産委託先に期待するサステナビリティの取り組みを示した「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン PDF 」を制定し、サプライヤーに自社のサステナビリティへの取り組みのセルフチェックを依頼
2014年	セルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化
2018年	海外グループ会社であるLion Corporation (Korea) のサプライヤーに対してセルフチェックを実施し、セルフチェックの対象国を拡大
2019年	<ul style="list-style-type: none"> サステナブルで責任ある調達へ取り組みの姿勢を明確にするため、「ライオン人権方針」「ライオン贈収賄防止指針」を制定 当社の主要な原材料であるパーム油誘導体や紙・パルプにおいて、持続可能な調達の取り組みを進めるため、「持続可能な原材料調達方針」を制定 購買活動における社会・環境リスクのさらなる低減を目的に、イギリスに本部を置くサプライヤーエシカル情報共有プラットフォーム(Sedex)に加入
2020年	海外グループ会社である獅王日用化工(青島)有限公司のサプライヤーに対してセルフチェックを実施
2021年	国内グループ会社であるライオンエンジニアリング株式会社の取引先に対してセルフチェックを実施
2022年	海外グループ会社であるSouthern Lion Sdn. Bhd.のサプライヤーに対してセルフチェックを実施

当社グループでは「[ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン \[PDF\]\(#\)](#)」に基づいたセルフチェックにお応えいただいたサプライヤーとの取引を行います。

セルフチェックにおけるPDCAサイクル



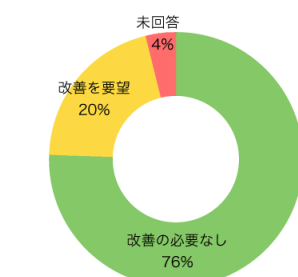
サステナビリティに取り組む重要性をサプライヤーに理解していただくため、セルフチェックの依頼文書において、サステナビリティを取りまく情勢の説明を記載する等工夫をしています。セルフチェックは取り組みの程度に応じた3段階のチェック基準と用語解説を設けています。

過去5年間に評価したサプライヤー数と回答率(目標値:毎年100%)推移

	サプライヤー数	回答率
2018年	610社	98%
2019年	585社	99%
2020年	574社	100%
2021年	502社	100%
2022年	474社	96%

結果概要

セルフチェック結果(2022年)



モニタリング数:
ライオン国内グループの原材料メーカーや生産委託先
計474社(国内:423社、海外:51社)

- 2022年の回答率は96%、平均点は1~3点の3段階で2.62点と、サプライチェーン全体でサステナビリティに取り組んでいることが確認できました。
- 未回答のサプライヤーは21社でした。

重要なサプライヤー

当社グループは、購買金額が大きく、原材料の代替が出来ないサプライヤーを重要なサプライヤーとして位置づけており、サステナビリティへの取り組みのモニタリングを継続しています。(定義:購買金額合計の80%以上を占め、当社グループの製品を市場に安定的に提供するために必要なサプライヤー)

重要なサプライヤーの状況

	重要なサプライヤー数	重要なサプライヤーの割合 (全一次サプライヤーのうち占める割合)	重要サプライヤーの購買金額比 (全一次サプライヤーのうち占める割合)
2018年	90社	14.8%	87%
2019年	90社	15.4%	80%
2020年	90社	15.7%	89%
2021年	90社	17.9%	89%
2022年	90社	17.9%	89%

高リスクサプライヤー

セルフチェックにおいては、当社グループが定めるサステナビリティの重要項目において、設定基準を満たしているかを確認しており、取り組み点数が低いサプライヤーを高リスクと定めています。

新規サプライヤーの選定

当社は、すべての新規サプライヤーに対して、取引を行う前に「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン」に基づいたセルフチェックを実施していただいています。当社が定めるサステナビリティの重要項目において、設定基準を満たしているか確認しています。

サプライヤーエシカル情報共有プラットフォーム(Sedex^{*})への加入

Sedex(本部:イギリス)は、グローバルサプライチェーンにおけるエシカルで責任あるビジネス慣行の実現を目指し、エシカルなサプライチェーンデータを管理・共有する世界最大のプラットフォームを提供する非営利団体です。当社グループはこれまで、独自の自己評価アンケート方式によるサプライヤーのモニタリングを実施してきましたが、2019年末、購買活動における社会・環境リスクの低減を目的にA・B会員として加入しました。サプライヤーの作業負担軽減の観点から加入を促進し、Sedexが提供するプラットフォーム上での回答を毎年依頼しています。重要サプライヤー90社中、18社に関してはSedexで管理しています(2022年12月末時点)。今後もサプライヤー管理を強化し、リスクマネジメントの強靱化を図っていきます。



* Supplier Ethical Data Exchangeの略称

持続可能な調達に向けた従業員研修

当社は、購買部門のバイヤー担当全員を対象に、持続可能な調達に向けた研修を行っています。一般社団法人日本能率協会(JMA)による調達資格認証制度(CPP)^{*}の資格取得に向け、学習会を実施しています。バイヤー業務におけるマネジメントや実践的な知識のみならず、環境、倫理、安全・衛生、人権等に配慮した調達の重要性や、サプライヤー対応についても学習しています。

また、サプライヤーの選定、取引条件や価格の設定等を、公平性・透明性のある話し合いで合意し、決定しています。下請代金支払遅延等防止法については、購買本部の社員に研修を行い、遵守を徹底しています。

CSR調達への要請の高まりを受け、今後も購買・調達に関するセミナーに社員を積極的に派遣する等、人材育成を進めます。

* CPP (Certified Procurement Professional): 企業において購買・調達業務に従事する方を対象にしており、購買・調達分野における専門知識を身につけていることを証明する資格 CPP資格

[CPP資格 公式サイト](#)

持続可能な原材料調達に向けて

サステナビリティ重要課題9 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築



考え方

ライオングループは、世界共通の2030年目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成への貢献を目指しています。しかし、当社グループの商品の主要原材料であるパーム油誘導体や紙・パルプには、人権・労働問題や環境問題等の持続可能な原材料調達に関するリスクがあります。そこで「[持続可能な原材料調達方針](#)」を制定し、当社の主要な原材料であるパーム油誘導体や紙・パルプにおいて、持続可能な調達の取り組みを進めています。

持続可能なパーム油の調達を目指して

当社グループは、枯渇することがなく、カーボンニュートラルな原料である植物原料の活用を積極的に進めており、その植物原料のひとつとして、世界で最も生産量の多い植物油脂であるパーム油の誘導体を使用しています。パーム油は主にマレーシアやインドネシアで生産されています。



パーム油の原料：アブラヤシ

パーム油の原料であるアブラヤシは生産性が高く年間を通じて収穫できることから生産量は年々増加していますが、生産地においては急激な生産拡大にともない、新規農園開発のための熱帯雨林の伐採やそれにとまう野生生物の生息地の縮小等の問題が生じています。また不適切な農園経営による、健康や安全への配慮が乏しい劣悪な労働環境や、低賃金、移民労働者の不当な扱い、児童労働等、社会的公正を欠くさまざまな人権・労働問題も指摘されています。

このような問題の解決に向けた「[持続可能なパーム油のための円卓会議\(RSPO*1\)](#)」に、当社は2006年から参画しています。2012年には、当社の国内関係会社でパーム油をマレーシアやインドネシアで調達しているライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所が、RSPO認証パーム油の取り扱いができる工場としてサプライチェーン認証システム*2審査に合格し、認定を受けました。これに基づいて当社グループは2012年からRSPOの認証が得られたパーム油の調達を開始しました。また、2020年3月にはライオンケミカル(株)ファインケミカル事業所、同年8月には本社および全ての自社工場(千葉工場、小田原工場、大阪工場、明石工場)でRSPOサプライチェーン認証を取得しました。さらに、2022年6月にはライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)でRSPOサプライチェーン認証を取得しました。

当社グループは2030年末までに、使用するパーム油誘導体をすべて認証油に切り換えることを目標に掲げ、2022年12月末、国内は主要原料ベースで99%をRSPO認証品に切り替えました。

さらに、消費者向け商品に使用するパーム油誘導体は、持続可能性に配慮した搾油所(ミル)まで追跡可能なものの購入を目指し、トレーサビリティ(追跡可能)の確保を目的に、当社と取引のある一次サプライヤーが調達する主要原料のミルリストを公開しています。

> [ミルリスト](#)

今後も持続可能なパーム油の調達に向けて取り組みます。

*1 Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議) [🔗](#)

RSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil) が考える持続可能なパーム油の生産には、関連する法制度に違反していないだけでなく、経済的に持続可能であること、環境的に適切かつ社会的に有益であることが求められます。それらの要件を具体的に示したのが、「RSPOの原則と基準 (The RSPO Principles and Criteria, P&C)」です。7つの原則の下に40項目の基準が定められ、これを満たして生産されるパーム油のみをRSPO認証パーム油としています。

*2 RSPOサプライチェーン認証

RSPO認証原料が全てのサプライチェーンで確実な受け渡しシステムが構築されていることを、外部審査員の監査を経て認証される制度です。



ライオンケミカル(株)
オレオケミカル事業所、ファインケミカル
事業所のRSPOサプライチェーン認定証

本社および全ての自社工場の
RSPOサプライチェーン認定証

ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)の
RSPOサプライチェーン認定証

持続可能な紙・パルプの調達を目指して

当社グループは、商品の包装や、冊子・パンフレット類、コピー用品等のオフィス用品に紙・パルプを使用しています。これらの資源調達において生物多様性の保全に配慮するため、「[持続可能な原材料調達方針](#)」のもと、FSC®認証紙*等の第三者認証紙の調達を進めています。(2022年12月末時点:主要商品における国内原紙メーカーからの第三者認証紙の調達比率約99% <重量>、主要商品ごとの包装材料の第三者認証紙の調達比率約65% <SKU>) また、商品の包装に使用されている木材チップおよび木材パルプは伐採国の行政区画(州や県等)まで100%追跡済みです。

* FSC®認証紙

責任ある森林管理を世界に普及させ、森林の適切な利用と保全のために活動することを目的とする国際的な非営利団体であるFSC®(Forest Stewardship Council®:森林管理協議会)の責任ある森林管理や加工・流通の規格に則り認証された紙のことです。

FSC®認証とは、適切に管理されていると認められた森林から生産された木材や、その他のリスクの低い木材を使用した製品にFSC®ラベルを付け、認証製品として販売できる制度です。

森林の環境や地域社会に配慮して作られた製品であることを示すFSC®マークが付いている製品を選ぶことは、森を大切にすることにつながります。

FSC®ラベル表示製品一覧



責任ある森林管理
のマーク
FSC® N003248

サプライチェーンに関する外部イニシアチブへの参画

当社は、2006年から国際的なイニシアチブである「持続可能なパーム油のための円卓会議 (RSPO) [🔗](#)」に参加しています。また、2012年からはグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ) のワークショップである「サプライチェーン分科会」に参加し、「CSR調達入門書」等の各種アウトプットの制作に取り組んでいます。



[🔗](#) 持続可能なパーム油のための
円卓会議



> 持続可能なパーム油プラット
フォーム「Japan Sustaina
ble Palm Oil Network(Ja
SPON)」 [PDF](#)



[🔗](#) 国連グローバル・コンパクト
(UNGC)

「グローバル購買担当者会議」の開催

当社グループは、グループ全体でのコスト削減や、人的交流による各社購買担当者間のコミュニケーションを強化することを目的に、「グローバル購買担当者会議」を毎年開催しています。

2022年は9月にオンラインで実施し、日本を含め6ヶ国が参加しました。今回で12回目となる当会議では、ESGの取り組みとしてモノマテリアル素材やリサイクルプラスチック等の持続可能な包装材料の活用、新型コロナウイルス環境下での購買部門の課題、コストダウンへの取り組み等を各社の代表者が報告し、情報共有を図りました。今後も、グループ全体での購買力強化に向けて、各社の購買活動をサポートしていきます。



オンライン会議に参加した各社の購買担当者

参加した海外グループ会社

- Lion Corporation (Thailand) Ltd.
- Southern Lion Sdn. Bhd.
- PT. Lion Wings
- Lion Corporation (Korea)
- 獅王日用化工(青島)有限公司

グリーン購入

当社は、[調達基本方針](#)の第2項に記載の内容、「品質・コスト・納期等の視点に加えて、法令遵守や環境保全および人権尊重等も含めて合理的に取引先を選定することにより、お客様への責任を果たすとともに、持続可能で健やかな社会の実現を目指していきます」に則り、全社的に環境に配慮したグリーン購入を推進しています。

従業員が使用する事務用品については、環境対応品の使用を徹底し、再生紙やFSC認証紙を使用したノート、社用封筒等、グリーン購入に努めています。また、新本社への移転を機に、従来の複数部所での購入からコンシェルジュ窓口での一括購入へシフトし、事務用品のトータル在庫量の削減にも貢献しています。

商品包装に使用しているインキのバイオマスインキへの変更

海洋プラスチックごみ汚染や地球温暖化などの環境問題を最小化していくために、環境負荷を低減した製品が求められています。その取り組みの一環として、商品包装(パウチ、シュリンクフィルム、アテンションシール、ラベル等)に使用しているカラーインキの一部に植物由来原料を使用したバイオマスインキ*の採用を進めています。

* インキ中に含まれる樹脂の一部にバイオマス由来の原料を用い、乾燥後のインキ塗膜中に10%以上の植物由来成分を含有する設計のインキ